

令和4年度第2回 今治市子ども・子育て会議 会議録

令和5年2月16日(木) 14:00~16:00  
今治市役所第2別館11階 特別会議室3号

令和4年度 第2回今治市子ども・子育て会議 会議録（概要）

1 日 時 令和5年2月16日（木） 14:00～16:00

2 会 場 今治市役所第2別館11階 特別会議室3号

3 議 題 今治市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて  
今治版ネウボラ拠点施設整備の基本構想策定について

4 報 告 教育・保育部会について  
児童健全育成部会について  
未来子育て部会について

5 出席者 【委員】14名

泉浩徳委員、青井努委員、山口早苗委員、田中和英委員、  
龍田三津子委員、越智瑞啓委員、田中弘委員、清水正恵委員、  
田中嘉男委員、矢野信子委員、梶原淳一委員、別府武士委員、  
重松仁美委員、ピアース恵利委員

【事務局】19名

こども未来部長、こども未来政策局長、福祉政策課長、障がい福祉課長、  
こども未来課長、ネウボラ政策課長、保育幼稚園課長、生涯学習課長  
生活支援課長補佐、健康推進課長補佐・保健担当係長、学校教育課主幹、  
こども未来課長補佐、ネウボラ政策課長補佐2名、  
保育幼稚園課長補佐2名、保育幼稚園課企画係長、  
ネウボラ政策課ネウボラ政策係主事

6 欠席者 【委員】4名

小池由貴委員、八木正史委員、日野郁子委員、松本義秀委員

7 会議内容

会 長	当会議の開会  新任委員の紹介 (山口早苗委員)
-----	-----------------------------------

	議事録署名委員に清水正恵委員を指名
	教育・保育部会について説明を求める。
事務局	資料 1 に基づき、来年度の利用定員変更について報告。
会長	委員に質問意見等を求める。→なし
会長	児童健全育成部会について説明を求める。
事務局	資料 2 に基づき、今治市放課後児童クラブ運営業務 委託候補者の選定について報告。
会長	委員に質問意見等を求める。→なし
会長	今治市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて説明を求める。
事務局	資料 3 に基づき、地域子育て支援拠点事業の実施か所数の変更（令和 5 年度から 9 か所を 10 か所に変更）について説明。
会長	委員に質問意見等を求める。→なし。 承認を求める。  (拍手により承認される)
	未来子育て部会について説明を求める。
事務局	資料 4 に基づき、報告。
会長	委員に質問意見等を求める。→なし
	今治版ネウボラ拠点施設整備の基本構想策定について説明を求める。
事務局	資料 5、6 に基づき 6-3 「基本的な考え方」まで説明。

会 長	委員に質問意見等を求める。
事 務 局	資料 6-2 (3) のネットワークの中で、社会資源として高齢者や障がい者施設や社会福祉協議会などを加えたらどうかという提案が以前あったかと思うがどのようになっているか。
山 口 委 員	未来子育て部会でのご意見を踏まえ、社会福祉協議会を追加した。高齢者との繋がりについては、利用者としては多世代交流という面で対象としながら、施設の機能としては切り分けて考えさせていただきたい。
事 務 局	今治市でも子育てがしやすい環境づくりに向けて、政策が進んでいることがよくわかった。地域の方から保育施設が休みのときの預かり施設が必要だというご意見があった。日曜・祝日の子どもの預け先はないが、仕事はある。ぜひとも今後休日や夜間も預かりできるようなものを拠点施設の中に組み入れていただきたい。
事 務 局	いろいろなニーズを踏まえて、備える機能、併せてその運営についても一緒に考えなくてはいけない。市民にとってどのような運営が利便性や満足度が高いのか、引き続き来年度に向けて検討していきたい。
会 長	引き続き後半の説明を求める。
事 務 局	資料 6 に基づき説明。
会 長	委員に質問意見等を求める。
越 智 委 員	そろそろ「今治版ネウボラ」という仮称を取り除く時期かなと思っている。なにか他に素敵な名前があれば良い。 今後、保健師・助産師をターゲットにネウボラを進めていくにあたり、時給を上げてでもしっかりと家庭の中に入っていけるようなベテランの指導員を雇うことにより質を上げていてもらいたい。 国からもあるように、異次元の政策をもっと今治市も取り入れて、日本のモデルとなるような子育て施策を進めてもらいたい。
事 務 局	名称については、いつまでも仮称ではいけないというのは、おっしゃる通り。ただ、ネウボラという言葉自体がなかなか浸透しきってない中、次に

	<p>進みたい気持ちとあわせて、子どもを取り巻く環境に対する皆さまのご理解をいただくことも大事だと思うので、今後の対応について、ぜひ一緒に考えさせていただきたい。</p> <p>2点目の人の確保と育成含めた質の向上については、本当に大切な観点。人の育成については、支援者側の育成や親の教育も含めて、子どもに関わる人たちの教育の場というのをしっかりと構築していくため、新年度に向けて現在準備を進めている。その中で、施設を作り拠点を構えたからといって解決するものではない問題もある。発達特性、虐待、また特定妊婦等については、現在ネウボラ政策課へ一元的に機能を備えることで、すでに出産期からの家庭の状況を踏まえた情報が、職員内で共有されており、要対協組織を構えて、各機関とも連携しながら対応している。正しくアウトリーチによるマンパワーにかかっている部分だと認識している。情報共有については、体制づくり、また人の育成あわせて両輪から取り組めるように、肝に銘じたい。</p> <p>3点目の異次元の少子化対策。国の動向が見えていない部分ではあるが、今治市は少子化の進行が非常に早い状況にある。県下においても、ワーストといってもよい状況にある中、これについて反転攻勢まではいかないにしても、やはり今治ならではの何か他に負けない政策を打っていく必要がある。その一つが、この事業かなと考えておるところ。ありとあらゆる手段を講じながら、今治で子育てしていける、お母さん方に選ばれる環境を目指して参りたい。</p>
越智委員	<p>いずれにしても、子どもを中心とした政策を考えていただきたい。子どもが本当にこれでよかったのかなど。お話ができる幼稚園保育園児や、小学生からも意見が聞ければいいのではないかな。異次元の少子化対策にあわせて少子化に持ちこたえられる政策も並行して考えていただきたい。</p>
会長	<p>子どもの意思決定権もありますし、アウトリーチをしながら、施設に来られない方への家庭支援、保護者支援、経済的支援など順番があるのかなど。まず親支援から始まって、働く場とか様々な問題を解決しないとおそらく子どもを産みたいと思われないのではないかな。施設だけではなく、サービス、ソフト面の質の向上をお願いしたい。</p>
ピアース委員	<p>この会場には男性が多く子育て中の方も少ないのかなと思う。私たち親世代とまた下の世代となると感じ方も違って来る。アンケートももっと幅広くとってみるのもいいのではないかな。</p>

事務局	<p>アンケートに関しては、中高生は学校を通して全校生徒に周知、ご協力いただいた結果。その中で生の意見も聞きたいということで、高校 2 校と座談会を行った。お母さん方も同じで、保育所等を通じて WEB アンケートにご協力いただき、直接お会いする機会が非常に大事をということで、市長との座談会を各所で開催した。市民の目線というのは大事なので、来年は地域でワークショップなども開催したいと思っている。</p> <p>これから子育てをする世代の声を反映させながら、10 年後 20 年後も普遍的なニーズというのをきちんと把握しながら、陳腐化しない施設を目指していきたい。</p>
ピアース委員	<p>長女の学校で、市役所職員の出前講座があり楽しかったという話をしていた。そのような経験によって子どもたちが興味を持つのかなと思う。</p>
事務局	<p>子育てにかかわる意見交換をという要望があれば、ぜひ伺いたい。</p>
田中(和)委員	<p>中学校でもふるさと学習として、市役所より出前講座に来ていただいて今治を見直す時間というものがある。市からの学校への支援は非常に充実してきているのではないかと感じている。</p>
青井委員	<p>病児保育の運営をさせてもらっているが、子育て支援事業 13 事業のその人たち同士でのコミュニケーションというのがないように思う。お互いに知っていれば、横の繋がりができ、連携しやすくなる、もっと働きかけができるのではないかな。</p> <p>保育士の確保を何とかしないと、施設ができて中身が揃わない、連携ができないということになりかねないと懸念をしている。</p> <p>今、病児保育は事前登録なしでネット予約をすれば利用できる、このようなことをもっと知ってもらう機会をつくれればよいと思う。</p>
事務局	<p>情報の連携と、各機関の連携、これ非常に大事なテーマで、我々も課題というところは認識している。今回、施設を作ることによって、様々な方が来ることで、いろんなサービスに積極的につなげていきたいなという思いがある。特に健診を受けるためにすべての子ども、お母さん方が利用される施設の中に様々な拠点が一括してあることによって、お母さん方にとって使いやすいサービスの提供に繋がるのではないかなというところが一つの目標である。</p> <p>多機関連携についても、引き続き取り組ませていただきたい。</p>

<p>保育幼稚園課長</p>	<p>ご指摘の、保育士の確保の問題、再三にわたって、いろんな場でお話出てるが、やはり保育士自体、魅力ある仕事だということをアピールしていく必要があると考える。それから処遇改善。やはり金銭的な待遇も含めて、改善していく面は多々あるかと思う。</p> <p>さらに、採用試験の多様化といった取組についても現在進めており、年齢制限の改正など多様な形で受け入れをしていけるような取り組みを今後進めて参りたい。</p> <p>13 事業に関しては、十分に浸透してないといえますか、よく情報を知らないがために使い勝手が悪いかのようにとらえられている面が多々あるかと思う。ワンストップで、利用者の方にきちんと情報をお伝えできるような形が何より必要だろうと思うので、13 事業それぞれコーディネートできるような仕組みづくりが必要だと考えている。</p>
<p>青井委員</p>	<p>例えばファミサポと病児保育の場合においても、こういうときに、こう使うんだよということをお互いがお互いの事業をよく知っているということが大切じゃないかと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>利用者同士の交流会、計画していただいたらと思う。保育士の確保については耳が痛い話であるが、養成校の最近の傾向として、未満児保育、小規模保育に行きたい大学生がほとんどである。以上児ではイベントがある、時間がない、夜持ち持ち越しの仕事がある、というようなイメージを持っていることが原因のようである。</p> <p>今治市のピアノの弾き語り試験も少し不人気。正直申し上げますと、今治市は敬遠するところがある。</p>
<p>田中(嘉)委員</p>	<p>先ほど保育士不足の話があったが、どういう先生がどう指導していくのか何かビジョンがあるのか。</p> <p>今治市は、住みやすいまちランキングで 1 位をとったが、子どもの減少も県では 1 位、何か矛盾しているところがあるように思う。これから、ネウボラを立ち上げてしていくにつれて、住みやすいまちの子育てってどのようなものだろうと結構注目が集まることが考えられる。</p> <p>昔は近所の年寄りの人が子育て、面倒見ていた。年配の方も含め地域にもアンケートをとるのも一つ。当事者である子育て世代の人たちにもアンケートをとって、何が足りないのか、なぜ子供が少ないのかというのを絞り出す非常にいい機会になるのかなと思う。</p> <p>そして子どもたちがどういうまちにしたいのかということまで追求して</p>

<p>会 長</p>	<p>いっていただければなというふうにも思う。</p> <p>子ども中心なので本当に子どもがどういう希望を持っているのか知らないとなかなかできないと思うので体制、ソフトづくりが大変だと思っている。あと共働きが増えてきて、やはり働きながら子育てをするのは本当に大変で、土日も働いている方のための預かり保育とかサポート体制が必要だなと思う。そのあたり、非常に人の問題はやっぱりお金かけないと保育士も来ません。やはり最後は処遇改善等ご検討いただいたらと思う。</p>
<p>山 口 委 員</p>	<p>子育てに関するお話を地域で聞いているが、いまだに市役所に行かないと情報を取れないと思っている人がいる。私は市民レベルで人が人に伝えやすい言葉で伝えるというのが鉄則だと思っているので、その方に今治市の LINE を登録してみませんかとお伝えした。LINE で広報誌が読めることもご存知ない方もいらっしゃる。広報今治の子育て支援特集のページ、編集の範囲でできましたら、真ん中の見開きページにこれをはめていただくと、外して、冷蔵庫に貼るなりして手軽に見える化されると思うのでいいかなと思う。</p> <p>私は赤ちゃん訪問を行う中で、携帯番号を「いつでも連絡してください。相談に乗ります。」とお母さんに伝えている。教員免許はありますが保育や専門家ではありません。でもただ聞いて欲しいというような方が私にショートメールや、LINEなどで相談をしてくれる。ワンクッションおいて、ちょっと心が軽くなったとかいうお声もあり、そういう市民と市民の繋がりというのを大事にして、これからも活動していきたいと思っている。</p>
<p>重 松 委 員</p>	<p>施設で発達を見ていただけるような仕組みがあればとてもいいなと思う。</p> <p>私自身、1歳半健診、3歳健診の受付をする中で、困っているかもしれないというお母さんを見かけたときに、私は専門家ではないので、お声掛けすることはできないが、自分から相談に行けるお母さんもいれば、相談せずに帰られているようなお母さんも見受けられる。そういった方々が気軽に、遊びの中で気づいてもらえるような遊び場になったらいいのかなと。特性を持っているお子さんに限らず、そういった育児のコツというのは、お母さんに共通して大切なこと。専門の先生が常駐または時々来てくださるような施設、また市内に発達の専門医が少ないと周りでも聞きますので、市内にもっと増えていくような仕組みあればいいかなと思う。</p>



事務局	<p>期発見、早期の支援につなげていくことは非常に大事だと思っている。施設に集う中で、何らかのシグナルをキャッチして、機会を絶対逃さないようにと思っている。次年度、早期発見のための新しいスクリーニングの取組や、人員体制についても進めている。そういった気づきに結びつけられるようにしっかり取り組みたい。</p>
青井委員	<p>結局虐待にしても、育児困難にしてもやはり孤立だと思うんですね。誰か近くで話を聞いてくれるよとか、こんな人がいるよっていうメッセージを発信しないといけない。集団でいうと4か月相談、1歳半3歳の健診がどうしても形式的な健診だけで終わってしまっていて、それぞれの育児不安だとかに今ひとつうまく機能できてないんじゃないか。確かに保健師さんが大変なのはわかるけれども、昔ながらの流れ作業ということになってしまう。受診率については、松山市は個別健診になっているので受診率が低くなっているのではないかと思うが、今治は集団健診で、ほぼ皆が行く。そこの後のケアとして発達だけでなく、育児が大変だなという人は積極的にピックアップして、保育所に通っている場合は保育所との連携をきちんとするとか、有効活用して、ネットワークで包み込むようなシステムを考えてあげないと、今の健診のやり方ではではもったいないと思う。</p>
会長	<p>構えないで遊びながらみたいなお話はその通りだと思う。健診の時に、お母さんお忙しいからそのまま帰られるんですかね。本当は遊びながら普段の日常の会話とかできたらいいと思う。</p>
重松委員	<p>受付で専門の方が見守りをしていただければ、待ち時間の親子関係などから気づいて声掛けをするということもある。子育て世代が集っている場所で、気軽に声掛けをして、拾い上げられたことに苦しまないような診断がついてしまうことが恐怖にならないような救い上げ方の仕組みがあれば小学校にもうまくつなげられると思う。</p>
別府委員	<p>子育て支援事業の連携については、ネウボラ拠点ができることで深まっていくなかと思うので今後取り組んでいきたい。</p> <p>障害福祉計画や介護保険事業計画は、地域福祉計画の上位計画であって、子育て支援の計画についても、整合性や連携について国から問われているかと思う。要は、専門家の人たちは限られた人数の中で、オールマイティにどう対応していくか。重層的支援体制にどう取り組んでいくのかと</p>

	<p>いうことを、拠点の整備にあわせて他分野との連携、家庭を一つの核として考えて、親の貧困やヤングケアラーの問題にしても親のいろんな状況が子どもに関係してくるのでどこをターゲットにしていくかというのも考えていった方がいいのかなと思う。</p>
事務局	<p>重層的支援について体制を進めつつあるところであるが、子育てに特化はしておりますが、高齢者も含めてすべての方に利用していただく中で、子育てに参画していただけるきっかけづくりになればいいのかなと思っている。</p> <p>また家庭を核として、支えるべき対象は親支援も含めた子どもの支援であろうかというふうに思っている。</p> <p>発達特性のある子をもつ親御さんへの支援、虐待、特定妊婦についても、基本は親をサポートすることによって、子の人権を守っていきたいという理念はしっかりともち地域全体で子育てを支えるまちになるよう、努力して参りたい。</p>
梶原委員	<p>児童養護施設も人手不足であり、特に今治より松山の施設に就職してしまうような傾向もある。虐待問題でいうと今治市は全国でもこれほど先進的に取り組んでいるところはほかにないと思う。平成12年の虐待防止法の成立の前年から虐待防止ネットワークに取り組み、現在では要対協となり、いち早く取り組んでおったので全国的にニュースになるような事件も起きていないのではないかと、早期発見早期対応ということがなされておるのではないかと思う。そして、ネウボラの質、精度をあげていくということが養育に困難を抱えている保護者にとっては安心できる体制になっていくのではないかと考える。</p>
事務局	<p>お褒めいただいたところだが、今治は虐待ケースが非常に多いということで、一致団結して対応をしている。早期発見が大事だが、拠点はできても施設を利用されない潜在的にお困りの方をどう救いに行くか、これが従前より非常にネックである。人の質の向上も含めてアプローチを考えつつその入口としてこの施設を位置付けたいという部分もあり、まずできることからしっかりと努めていきたい。</p>
龍田委員	<p>施設について、まずは駐車場が整備されていること。子どもが入ってみようと興味をそそられるような面白いデザインの建物にしてもらいたい。</p> <p>学生ボランティアの経験を通して保育の仕事に興味を持つということも</p>

	<p>あるかもしれない、また若い方だけではなくてお年寄りの方も子どもの活力をもらって帰ろうというような方を登用するのもいいのではないか。親御さんは、保育力、子育て力が相当落ちているので、施設や地域がフォローしていかなければならないと思っておるので人材育成については徹底的にしていきたい。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>駐車場については、限られたその敷地内の場合でも、何とか利便性の方は確保して参りたい。そしてやはり施設に魅力があってこそ寄っていただけるのだろうと。そういう点で、私ども基本理念に掲げさせていただいた集いという部分には、わくわくするものが、必要なだと思っている。デザイン面、提供するコンテンツ含めて、皆様が利用しやすいようなものについて、引き続きアイデア出していきたい。</p> <p>ボランティアについては市民や、様々な子育て団体、また企業などの参画を促すという点、一つのコンセプトとしても挙げさせていただくが、やはりまち全体で子育てに関わってもらわなければならない。そうじゃないと担い手が足りないという状況になるかと思う。子育てだけでなくまちづくりも含めて、様々な主体が参画できるようなまちを一緒に目指していくきっかけにも繋がれば、いい施設になるのかなと思っている。</p> <p>最後に、子育ての力が落ちているという中で、我々も親教育に力を入れる必要があるのかなと思っている。反面、おじいちゃんおばあちゃんも生涯現役で、家庭が支えていた子育てを地域で支えるところにシフトしていった中で、我々行政としても、施設でしっかりとサポートして参りたい。</p>
<p>ピアース委員</p>	<p>中高生のボランティアは社会体験にもなり、とてもいいと思う。また、地域の公民館も、夜宿題をしたり、子どもたちが集える場所になればいいと思う。</p>
<p>田中(弘)委員</p>	<p>自治会は、学校があり地域がある、仕事内容も非常に広範囲にわたっている。0歳から18歳までの年齢に応じた少子化対策について行政から政策を打ち出し、取り組んでいただきたい。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>自治会においても、やはり地域、各自治会組織の担い手も会費等があるものだと思う。国を挙げての少子化対策だが、今治市らしい取り組みをしっかりと進めていきたい。</p>
<p>清 水 委 員</p>	<p>共働きで子どもを育てたが、しんどいときに限って子どもがぎやあぎや</p>

	<p>あ言って眠たいのに寝られない。そんな時に姑が抱いてくれたりと助けてくれた。そのようなお母さんの息抜きができるような、お茶を飲みに行きたい髪も切りに行きたいとか、自分の時間が欲しいと切実に思っている方もいるのではないかと思う。龍田先生がおっしゃったように、ちょっと時間に余裕があるおばあちゃんたちが、ボランティアで資格はないけれども、何人かで見てあげるよとか、そういうふうな出番を作ってあげるのも良いかなと思う。</p> <p>特にひとり親で育てていたらもうずっと24時間子どもと一緒に、トイレ行くのも大変という人もいるかもしれない。</p> <p>そして全体的に、お母さんが子育てして当たり前ではなくお母さんも息抜き絶対OKというような世の中の雰囲気ができるとずっと楽になるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>お母さん方のレスパイト息抜きというのは虐待の防止の観点からも非常に大事。ファミリーサポートセンター、ヘルパー制度等せっかくいい制度があるのに、まだ十分その良さやサービスを知られていない。もっと我々が発信して、口コミ含めて様々なツールを活用して、利用頻度を上げていきたい。</p>
山口委員	<p>何十年もボランティアをしているが、大切なのを一つ、児童心理学とか子どもの心理をよく学ぶ研修は必須だと考える。お子さんであろうと高齢の方であろうと、子どもに関わる方はきちんと学んで欲しい。</p> <p>ファミリーサポートの研修は無料で受けられるが、医者や専門家の先生を呼んで素晴らしい研修。そういった研修制度を活用することはできないかと思っている。</p>
別府委員	<p>年2回講習会があり、ファミサポの提供会員の方向けに行っている。市の方が構わなければ、保育的なボランティアをしたいという方に受講していただくのはいいかと思う。</p>
会長	<p>本議題への承認と、3月に予定している答申へ本日のご意見を反映した基本構想案の作成に関して、会長への一任について承認を求める。</p> <p>(拍手により承認される)</p> <p>その他に進み質問意見等を求める。</p>

越智委員	腰をおるようで申し訳ないが、広報について給付金やクーポンをあげますばかりではなくて、見せ方の工夫について検討していただきたい。
田中(和)委員	<p>全国的に不登校の児童生徒、それから、学校に来ているが教室になかなか入りににくい児童生徒が大変多い。自分たちのことにはなるが、学校の先生は非常に奮闘している。学校に来させるのがいいのか、今は落ち着いてエネルギーを貯めさせるのがいいのかとか、「頑張れ」などと声をかけるのがいいのか、言わないほうがいいのかということは全部大人が考えたこと。子どもたちによって状況や考え方が変わる。全部やり方、関わり方を変えなければいけないというところが難しい。これは実際に子どもと関わらないとわからない。</p> <p>そこで学校運営協議会やコミュニティスクールが各校区にも設置されたかと思うが地域の皆さんに、例えば公民館の一室借りて、学校に行きにくい子たちが集まる場所を作り、できる範囲で地域の大人として何らか関わってもらえないだろうか。ボランティアやってくれないだろうかという願いはこれからあるかもしれない。こういう経験がその子たちのコミュニケーション能力に繋がって、外に出ていくきっかけにはなるかと思うので、ご協力いただけたらありがたい。</p>
会長	ぜひ地域でこういう環境があれば、利用させていただいて、地域のボランティアの力をお借りして、子どもの特性、個性、環境に応じた支援が必要だと思う。公民館等でそういった高齢者や障がい者ボランティアぜひやっていただけないかなと思う。プラス親支援も含めて子どもたちが社会に出ていけるように繋げていただければと思う。
事務局	<p>基本構想の答申を3月30日(木)に開催予定。  泉会長、青井副会長、越智委員、龍田委員</p> <p>次回は夏ごろ開催予定。</p>
会長	当会の閉会